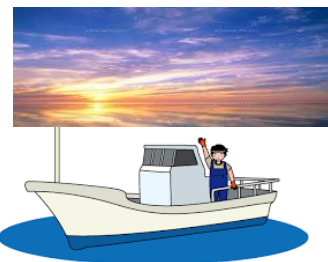


# 釣 り

加藤 誓 (ちかい)

海のない県で育ったので、海での釣りが大好きである。  
防波堤・磯も随分やったが、今は馴染みの船頭さんの仕立て船である。  
竿はなく直接 釣り糸を持って釣る手釣りであるが、  
仕掛けから餌まで全て船頭さん任せの「大名釣り」である。  
乗船者は釣り仲間 Sさんと船頭さんと私の3人である。



船頭さんは篠島住人で、船は知多半島の片名港から朝5時出航した。

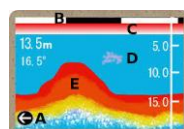


朝焼けの中、潮風を切って船は一路 神島沖を目指し  
小1時間後、釣り場「瀬木寄瀬」に着く。  
魚群探知機を見ながら、付近を何回もグルグル回り  
潮の流れも考え、いかりを落とす場所を決める。  
今日の釣果がかかる船頭さんの経験の見せ所である。

第一投の頭の中は、ハマチと鯛の姿で一杯である。

船頭さんが「30メートル、底2ヒロ上げて！」

仲間のSさんが「誰が最初に釣るか勝負！」



30メートル先の動きが分る様 糸を持った指先に全神経を集中する。

隣の船頭さんがグイと糸を手繰り寄せた。糸が真下に潜った。  
そして、船頭さんは糸を送った。私が「大きい！鯛だ。」と叫んだ。  
船頭さんは静かにタモ網で60cm台の鯛をすくった。  
暫くするとSさんがグリーンと糸に引っ張られ 腰を浮かした。  
船頭さんが「ハマチだ！加藤さん釣り糸を片付けて！」  
慌てて糸を巻き上げる横で、Sさんの糸は、みぎ、ひだりと大暴れ。  
やっと、ハマチが見えてきた。80cm級の丸々太った一本であった。  
Sさんがこちらを見てニヤッと笑った。 焦った。



一刻が経ち、潮の流れが緩やかになった。日差しも強くなってきた。

釣り糸は真下に垂れ下がったままである。

船頭さんが撒き餌カゴを 何回も上げ下げするガラガラ音がむなしく響く。

こんな時でも、船頭さんは40cmクラスの鯛をコンスタントに釣り上げる。

誘いは殆どしていないようだ。餌のウタセエビの付け方なのか、合わせのタイミングなのか、  
船頭さんの動きをじーっと観察するが 自分との違いがどうも分らない。



12時を少し過ぎた。Sさんが「上がろう！」

船はいかりを上げ片名港へと戻る。

「今日は素晴らしい朝焼けと、久しぶりの潮風で気持ちが良かった！」と私が悔しがる。

おすそ分けが大半の ハマチ・鯛・クロダイで70cmのクーラーが満杯の お持ち帰り。

「今日はよく釣れた！」と 女房に。

